

生理機能と精神効果に関する研究

— ESPとの関連 —

野村 晶子

目 的

本研究は生体の生理機能と精神効果についての関連を分析するもので、すでに1971年度、1972年度、1974年度に日本教育心理学会に於いて、生理機能(B. B. T., 脈搏, フリッカー値)と、Personality Traits (Y-G, M. M. P. I)との関連をみてきた。また、1973年度、日本超心理学会に於いては、同時に、E. S. P.との関連についてを報告している。

大谷(1970)は、G. S. R., 脈波, 体温, 呼吸数とE. S. P. 得点との関連で、Position - Effect の現象をみい出し、中枢神経の活動水準の関与を報告している。また、J. B. Rhine(1956)は、Sodium AmytalとCaffein及びアルコールの服用で、E. S. P. 得点の変動することを指摘している。他にJ. A. Greenwoodの不安傾向Test, ロールシャッハとの関係のあることや、J. L. Woodruffの態度との関連のあることもあげられ、殊に、M. Johnsonの不安傾向の強いSubjectはE. S. P. 高得点を示した事実は興味ある現象である。そこでE. S. P.現象を接点と仮定し、生理機能とPersonality Traitsとの関連を分析したので報告する。

方 法

Subjectは東京都内女子短大生55名。

(イ) 実験及びTest 施行の期間 …… 1969年～1971年

1969年……Y-G Test, M. M. P. I. Testの施行

1970年……(1)体温測定, 脈搏測定, 及び生理状態の調査(朝, 夜間の1日2回測定し, 1カ月間継続測定した。)

(2)フリッカー測定(10試行)

1971年……E. S. P. Testの施行(大谷式集団用紙)

(ロ) 手続き……(1)Y-G Test, M. M. P. I. Test施行にあたっては教室で筆者が各項目について読み上げ集団Testの手法を取った。(6月)

(2)生理機能の測定調査にあたっては、Subject自身1カ月間記録させた。(10月)

(A . M . 6 時 , P . M . 1 0 時 に , 体 温 (1 0 分 間) , 脈 搏 (1 分 間) 計 測 し た 。 又 , 生 理 周 期 に つ い て も 同 時 に 記 録 し た も の で あ る 。)

(3) フ リ ッ カ ー 測 定 (6 月 ~ 7 月)

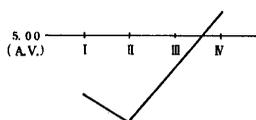
(4) E . S . P . Test 施 行 に あ た っ て は , 自 発 的 に 参 加 し た 者 で あ る (こ の た め Subject は 5 5 名 で あ る 。)

結 果 及 び 考 察

(Table 1 .) Y - G Traits (h i g h t) と E . S . P . 得 点

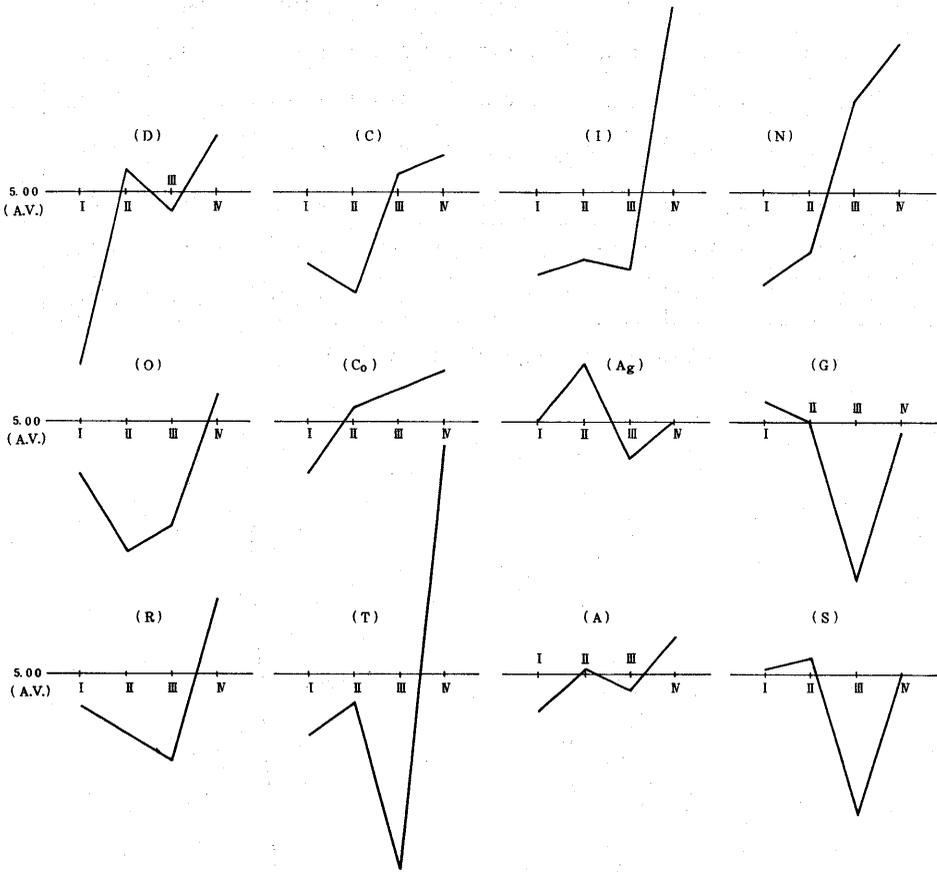
Traits Run	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S	(Total)
I	4.312	4.684	4.666	4.600	4.777	4.781	5.000	5.080	4.857	4.714	4.824	5.042	4.800
II	5.125	4.666	4.695	4.737	4.423	5.065	5.269	5.000	4.758	4.857	5.000	5.087	4.670
III	4.937	5.052	4.666	5.400	4.555	5.156	4.852	4.360	4.633	4.143	4.941	4.416	4.850
IV	5.266	5.158	5.833	5.650	5.148	5.219	5.000	5.000	5.333	6.000	5.176	5.000	5.054
Total (シート)	19.571	18.727	18.384	19.529	18.791	20.000	19.923	19.333	19.551	19.545	20.000	19.695	19.218
(Run)	4.892	4.681	4.598	4.882	4.697	5.000	4.980	4.833	4.886	4.886	5.000	4.923	4.800

Y - G 各 Traits で 高 得 点 を 取 っ た 各 Traits の 平 均 で は E . S . P . Sheet 1 9 . 2 1 8 (Run 4 . 8 0 0) で , 標 準 化 さ れ て い る 値 2 0 (Run 5 . 0 0) よ り 低 い 得 点 で あ っ た 。 (Fig . 1) 又 , 各 Traits 別 で は Y - G Traits D . で は , E . S . P . カ ー ド Position 1 から 4 ま で を 横 軸 に と る と , Run 1 に み ら れ る 低 さ か ら , 初 期 に , 可 成 り 強 い 抑 制 が み ら れ る 。 又 , Traits N . も 同 様 の 結 果 で あ っ た 。 Traits C , で も , 抑 制 が み ら れ る 。 Run III IV で は 平 均 以 上 の 得 点 を 得 た 。 即 ち , 初 期 の 抑 制 が 強 く , Run II に 於 い て は 得 点 が 最 も 低 い 。 即 ち U 字 形 を 描 い て い る 。 又 , Run IV に 於 い て 上 昇 を み る 。 初 期 の 抑 制 の な い も の と し て , Ag , S . が あ げ ら れ る 。 次 に フ リ ッ カ ー 値 と E . S . P . で は , (Fig . 2) フ リ ッ カ ー 値 の h i g h t Group で は , E . S . P . 得 点 (Fig . 1) Y - G と E . S . P . 得 点



Y - G 得 点 の (\bar{X}) Total

(Fig.1) Y-G TraitsとE.S.P. 得点



(附)

(1) Y-G についての Scal, 内容

- | | |
|----------|-----------|
| D ……抑うつ性 | G ……活動性 |
| C ……回帰性 | R ……のんきさ |
| I ……劣等感 | T ……思考的外向 |
| N ……神経質 | A ……支配性 |
| O ……主観性 | S ……社会的外向 |
| Ag ……攻撃性 | |

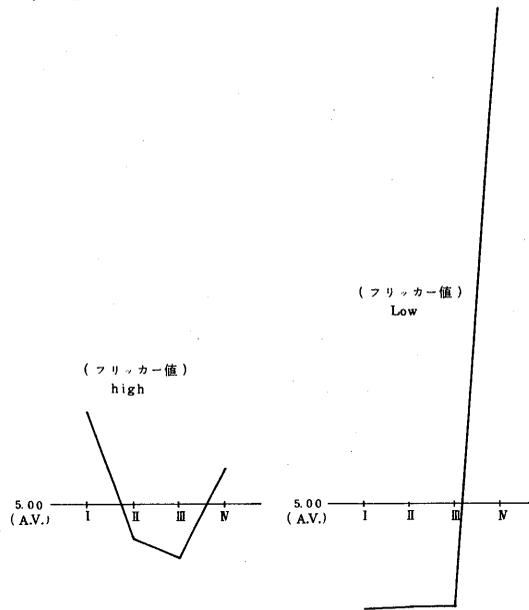
(2) 体温, 脈搏の Type について

- | | |
|----------|------|
| 体温の差が大…A | 脈差が大 |
| 一般型 ……B | 一般型 |
| 低体温 ……C | 頻脈 |
| 高温 ……D | 徐脈 |

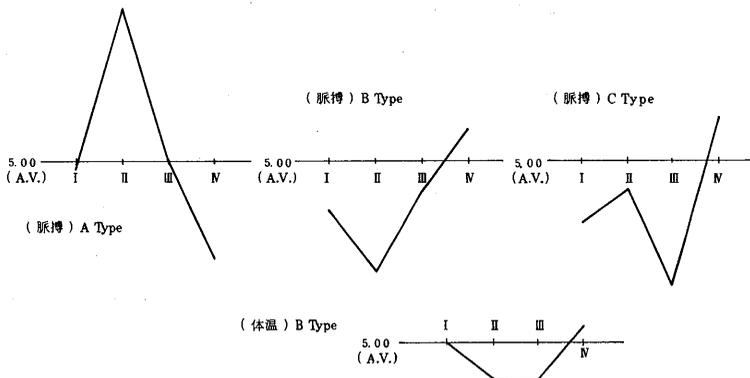
(Table 2.) 生理機能とE.S.P. 得点との関連

生理機能 Run	フリッカー値			脈 搏				体 温	
	H	L	Me	A (差大)	B (一般)	C (類)	D (徐)	B	C
I	5.555	4.333	4.435	4.916	4.650	4.600	4.714	5.032	4.400
II	4.777	4.333	6.000	6.000	4.250	4.800	3.571	4.742	4.450
III	4.666	4.000	5.250	5.250	4.800	4.200	4.714	4.742	4.750
IV	5.333	7.000	4.333	4.333	5.200	5.266	5.000	5.226	4.750
Total (シート)	20.111	20.000	21.666	21.666	19.350	19.400	18.166	18.562	19.677
(Run)	5.028	5.000	5.416	5.416	4.637	4.850	4.541	4.919	4.640

(Fig. 2) フリッカー値とE.S.P. 得点



(Fig. 3) 生理機能とE.S.P. 得点



はU字型を示し、Low Group では最終Runで高得点で、急激に伸びを示している。又、生理機能との関連に於いては、体温では一般型B Type（高体温期、低体温期、排卵などの生理周期が明瞭に示されているもの）との関連がみられ、E. S. P. 得点ではU字型を示している。脈搏との関連は、一般型B Type（60以上～80以下）、頻脈C Typeのもの、上昇傾向を示し、脈搏の一定でないものA Typeは下降傾向を示している。

Y-G Traits D. N. Type では、初期に抑制傾向があり、Runの進むにつれて、上昇するこの結果は、M. Johnsonの不安傾向の高いものはE. S. P. 得点が高いという仮説や、大谷氏（1970）のG. S. R.との関連に於いて、内向性の者がTestの進行と共に得点が増加するというPosition Effectの効果説を支持する結果を得たことになる。又、適応性の高いSubjectのE. S. P. 得点が高いという報告や、中枢神経の活動水準の関与（過度の緊張の状態では低得点）の仮説（大谷氏）も、フリッカー値の低いSubjectのE. S. P. 高得点、上昇傾向の者や、脈搏の一般型B Typeの者の高得点、上昇傾向という結果を得たことから、興味深い問題が提起されたことになる。

結 果

E. S. P. におけるPosition EffectはTestへの認知と慣れの関与する場合と単なる抑制のみられる場合がある（大谷1955～）ことをすでに指摘されているが、本報告でもPosition EffectがPersonality Traitsとの関連がみられた。即ち、Y-G Traits D, N, C, Typeの者では、E. S. P. 得点に於いて初期の抑制がみられ（Position I, II）Testの進行と共に上昇傾向を示す（Position III, IV）U字型Curveを示しているが、これら不安傾向のTypeの者に得点の変動のあった結果からTestへの備え、即ち、中枢神経の緊張levelが関与することがみられ、（Ag. S. Typeの者は、全く抑制もみられず、両者の対比が明瞭である。）従来の研究を支持するものである。又、E. S. P. とフリッカー値との関連では、high levelの者にU字型Curveをみ出し、Low levelの者では高得点を得ている結果から、Personality要因に関連づけることも、できそうである。E. S. P. と生理機能については、脈搏では、一般型、頻脈の者が上昇傾向を示している。体温では、一般型のU字Curveがあげられ、変動のある者（1°C以上）は下降の傾向をみた。しかし、脈搏、体温の各Typeについては、今後、Subjectを多くとり、分析したい。又、何らかの条件で、逆U字Curveがみられるとすれば興味深い

問題としてみてゆきたい。

—— 稿を終えるにあたり，E. S. P. について御教示いただきました，防衛大学
校大谷宗司教授に感謝の意を表します。——

文 献

- (1) 大谷宗司；長期測定による E. S. P. と生理的条件との関係についての一実験，
防衛大学校紀要（人文科学編）第 21 輯，1971.
- (2) 野村晶子；女子学生の生理機能と Personality Traits との関連（Ⅱ），日本
教育心理学会第 13 回大会発表論文集，1971.
- (3) 野村晶子；女子学生の生理機能と Personality Traits との関連（Ⅲ），日本
教育心理学会第 14 回大会発表論文集，1972.
- (4) 野村晶子；女子学生の生理機能・Personality Traits と E. S. P. との関連，
日本超心理学会第 7 回大会発表集，1973.
- (5) G. R. Schmeidler & R. A. McConnell；E. S. P. and Personl-
ity Patterns，Oxford University Press，1958.